

書名	47都道府県・文学の偉人百科			著者名	森岡 浩／著		
出版社	丸善出版	ISBN	978-4-621-30920-9	本体価格	¥4,400	発売	2024/5/1
内容	随筆・評論・小説・戯曲などのジャンルの枠を超え、47都道府県ごとに明治以降の主な文学者の代表的作品と生涯を紹介。また各都道府県を代表する文学者一名については肖像入りでより詳しく解説。主要な文学者が総覧できるユニークな文学ガイド。						

書名	小川晴暘と飛鳥園 100年の旅			著者名	企画・原案:奈良県立美術館、姫路市立美術館		
出版社	求龍堂	ISBN	978-4-7630-2405-3	本体価格	¥2,500	発売	2024/5/10
内容	「飛鳥園」の創立100年を記念し開催される巡回展の公式図録兼書籍である本書によって、小川晴暘、光三、光太郎の親子三代で引き継がれる飛鳥園の活動を振り返る。飛鳥園に保存されている美しい仏教美術写真は無論、小川晴暘が調査の際に遺したスケッチや拓本、晴暘が発刊した『東洋美術』などの古美術研究専門誌や文献資料もあわせ111点を掲載。古美術・文化遺産を愛した小川晴暘という人物の姿にも迫る。						

書名	マンダラの新しい見方			著者名	森 雅秀／著		
出版社	法藏館	ISBN	978-4-8318-6352-2	本体価格	¥3,600	発売	2024/5/10
内容	両界曼荼羅、浄土曼荼羅、社寺参詣曼荼羅など、これまでに生み出されてきた様々なマンダラのあり方を、可能なかぎり探し出して積み重ね、そこに見られる多様性や一貫性を解き明かすことで、これまでとらえどころのない言葉で語られたマンダラの意義を再考する。						

書名	万葉社会史の研究			著者名	藤井 一二／著		
出版社	塙書房	ISBN	978-4-8273-1352-9	本体価格	¥10,000	発売	2024/5/28
内容	大伴家持の国守5年間・歌作220余首が彩る「高志国」を舞台に、万葉集・正倉院文書・東大寺開田図等を駆使し、大伴家持と地方行政、万葉集にみる村、海浜遺跡と文字資料の検証から、「大伴家持の時代と社会」における、多様で動的な地域史像を描出する。						

書名	語りだす奈良 1300年のたからもの			著者名	西山 厚／著		
出版社	ウェッジ	ISBN	978-4-86310-282-8	本体価格	¥1,800	発売	2024/5/21
内容	2014年まで奈良国立博物館で学芸部長をつとめ、正倉院展など100以上の展覧会を運営してきた著者。奈良に息づく様々な文化をわかりやすく、学術的価値のある知られざるエピソードを盛り込んだ講演が大人気です。 本書では、著者がこれまで触れてきた奈良の文化財や史跡、伝統行事などを手がかりに、仏教が根付いた奈良の真髓をやさしく解説。仏像が作られたきっかけ、伝統行事の知られざる意味など、奈良で暮らし、奈良を愛してきた著者ならではの“奈良学”が満載です。						

書名	女帝・皇后と平城京の時代			著者名	千田 稔／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-07537-4	本体価格	¥2,200	発売	2024/5/24
内容	磐余から飛鳥、平城京へと遷都を重ね、六人の女帝と光明皇后が育んだ「ヤマトの時代」。仏教が公伝した欽明朝から称徳天皇まで、海外文化の吸収や律令体制の強化、計画都市など、国家の礎を築いた歴史を描く。						

書名	短歌を楽しむ基礎知識			著者名	上野 誠／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-047037250	本体価格	¥1,800	発売	2024/5/29
内容	歌を作ること、歌が発信されることについて、わかりやすく解説。結社や新聞歌壇にこだわらない歌人たちにもそのありようを伝え、各時代の歴史空間の中で存在してきた短歌のありようを示す。						

書名	日本人は漢文をどう読んだか			著者名	湯沢質幸／著		
出版社	勉誠社	ISBN	978-4-585-38006-1	本体価格	¥3,200	発売	2024/5/31
内容	日本において古代から現在に至るまで延々と読み継がれてきた漢文。その読み方には中国から渡来した中国音で読む〈直読〉、そして、平安時代に生まれ、漢文読解の方法としてその地位を確立した〈訓読〉の二種類が存在する。しかし、古代から現代までの間に〈直読〉は消え、日本語で読む〈訓読〉がもっぱら使われるようになった。なぜ、日本では〈訓読〉優位の状況が生じたのか―。漢文を取り巻く環境を一つ一つ分析することを通して、〈直読〉から〈訓読〉への変化を追い、日本人の漢字漢文受容の歴史を描きだす。						